

◎野木京子 9月

タイムカプセルを
一緒に埋めた友人と
疎遠になってしまった

風船（東京都）

*時間の流れが重層的で、痛みも感じた。友人と再会する日はなく、タイムカプセルはそのまま数百年も地中で眠り続けるのだろう。

青白く濁った瞳の老犬が
私の気配に尾を振っている

猫谷圭希（広島県）

*切なくて美しい一場面。見えなくても、気配という風の動きだけで心が通じ合わせている犬と人間。

殺人予告の手紙も
恋文もポストの中では
重なり合って
一夜を過ごす

まちなりこ（埼玉県）

*街角に立つポストを見て、どんな郵便物が入っているのだろうと私もときどき思う。ばらばらな用事とさまざまな感情が、ポストのなかで入り混じっていることの不思議さ。恋心と殺意という両極端の具体的な感情を提示して印象的。

冷たいビールのつまみには
今日の失敗が合うんだよ

降旗 沃（東京都）

*すっと心に入った。苦い味わいがありながら、屋外でビールを飲んでいるような爽やかさも感じた。

蝉があと三回鳴いて

ひき上げる麦茶パック

藤色（京都府）

*麦茶パックを引き上げるタイミングを、時計やタイマーなどに頼らない。セミの鳴き声に耳を澄ます気配が詩から感じられ、楽しかった。

春の夕暮れは

世間知らず

秋の夕暮れは

絶対、なにかを

知っている

西 緑花（京都府）

*春は若い。夏の酷暑や嵐という苦労を越えて、成長した時間が秋。それも黄昏時となると、人間には計り知れない秘密を隠しているはず。

生き物は目玉をべこりへこませて

おんなじ顔で宇宙へと去る

うずたろう（埼玉県）

*なるほどと思った。自分のことをきれいだとぬぼれたり、いまいちの顔だと自信をなくしたりするけれど、命を失ったあとはみんな同じ顔になる。だから開き直って、堂々と自分の顔で生きていきたい。

酔った父は月まで水を買いに行く

長谷川柊香（宮城県）

*酔っていると、自分がどこを歩いているのか覚束なくなる。そういうときはきっと、地上から浮き上がって宇宙空間でも歩いているのだ。父は無事に帰ってきたかな。

叶うならベテルギウスの消滅の光

ふたりで看取りたいんだ

ベロニカ（神奈川県）

*オリオン座の1等星ベテルギウス。いつ爆発してもおかしくないと言われているし、それは10万年後だとも言われている。つまり明日かもしれないし、気の遠くなるような未来かもしれない。壮大な時間を貫く愛。

古里に着くと

なくしものが増える

翠（東京都）

*なくしものは、都会で捨ててきたものか。故郷で見捨ててきたものか。なくしものに気付いたとき豊かになるという、逆説的な心の働き。